

「12使徒の選抜 - ピリポ、ナタナエル」

§ 053 マコ 3 : 13~19、ルカ 6 : 12~16

1. はじめに

(1) 宣教の拡大のために、使徒たちを選抜し、彼らを各地に派遣する段階になった。

(2) 12使徒のリストは、4ヶ所に出て来る。

①マコ3章、マタ10章、ルカ6章、使1章

②同名の者、別名を持つ者などがいて、非常に難解である。

(3) A. T. ロバートソンの調和表

(§53) 徹夜の祈りの後、イエスは12使徒を選ぶ。

マコ3 : 13~19、ルカ6 : 12~16

(4) これまでに4人取り上げた。

①ペテロ : キーマン

②アンデレ : 紹介者

③ヤコブ : 天国への一番槍

④ヨハネ : 主が愛された弟子

(5) 今回は、第2組の最初の2人を取り上げる。

⑤ピリポと⑥ナタナエル (バルトロマイ)

<12使徒の歌 (ルカ6 : 14~16) >

1. イエスの使徒たち12人、彼らは全員20代、

1組4人で活動し、御国の福音伝えます。

2. ペテロが最初の長(おさ)となり、弟アンデレそこに付き、

ヤコブとヨハネの兄弟も、御国のために仕えます。

3. ピリポの組の者たちは、バルトロ、別名ナタナエル、

マタイ、もとは取税人、トマス、あだ名がデドモ(双子)です。

4. ヤコブの父はアルパヨで、シモンの前歴熱心党、

別名タダイのユダがいて、裏切り者のユダ最後。

## 2. アウトライン

### (1) ピリポ

- ①概略の紹介
- ②5000人のパンの奇跡の場面
- ③ギリシア人訪問の場面
- ④最後の晩餐の場面

### (2) ナタナエル

- ①概略の紹介
- ②イエスとの出会い
- ③復活のイエスとの出会い

## 3. 結論

- (1) ピリポの性格
- (2) ナタナエルの性格

このメッセージは、ピリポとナタナエルの人生から教訓を学ぼうとするものである。

## I. ピリポ

### 1. 概略の紹介

#### (1) ベツサイダの出身

- ①「house of fishing」という意味
- ②カペナウムに近かったと思われる。
- ③ペテロとアンデレは、ベツサイダ出身であった。

#### (2) 恐らくバプテスマのヨハネの弟子であろう。

「その翌日、イエスはガリラヤに行こうとされた。そして、ピリポを見つけて『わたしに従って来なさい』と言われた」(ヨハ1:43)

- ①彼はイエスによって招かれて、イエスの弟子となった。
- ②ユダヤの習慣では、弟子志願者から申し出ることになっていた。
- ③彼はその招きにただちに応答した。

#### (3) 彼は、ナタナエルにイエスを紹介した。

「彼はナタナエルを見つけて言った。『私たちは、モーセが律法の中に書き、預言者

「**たちも書いている方に会いました。ナザレの人で、ヨセフの子イエスです」**」

(ヨハ1:45)

- ①アンデレとペテロの場合は、直感的、行動的である。
- ②ピリポの場合は、理性的である。
- ③「**モーセが律法の中に書き、預言者たちも書いている方**」  
(例話) 第4回「再臨待望聖会」の講師セツ・ポステル師

(4) ピリポとナタナエルは、同時に出て来ることが多い。

- ①ふたりは似たようなタイプの人物である。

## 2. 5000人のパンの奇跡の場面

「**イエスは目を上げて、大ぜいの人々の群れがご自分のほうに来るのを見て、ピリポに言われた。『どこからパンを買って来て、この人々に食べさせようか』。もつとも、イエスは、ピリポをためしてこう言われたのであった。イエスは、ご自分では、しようとしていることを知っておられたからである。ピリポはイエスに答えた。『めいめいが少しずつ取るにしても、二百デナリのパンでは足りません』**」(ヨハ6:5~7)

(1) この質問は、ピリポを試すためのものであった。

- ①ギリシア語で「ペイラゾウ」(英語で prove) である。
- ②決して悪い意味ではない。
- ③これは、弟子訓練の一環である。

(2) なぜ試す必要があったのか。

- ①ピリポの長所が欠点になっていたから。
- ②理性中心の信仰からの脱却が必要。

(3) ピリポの答えは、彼の特徴を反映させたものであった。

- ①彼はすばやく計算した。
- ②200デナリとは、労働者の200日分の賃金である。

(4) 彼は、イエスの方法を目撃し、仰天したことであろう。

## 3. ギリシア人訪問の場面

「**さて、祭りのとき礼拝のために上って来た人々の中に、ギリシヤ人が幾人かいた。この人たちがガリラヤのベツサイダの人であるピリポのところに来て、『先生。イエスにお目にかかりたいのですが』**」と言って頼んだ。ピリポは行ってアンデレに話し、アンデレとピ

**リポとは行って、イエスに話した」(ヨハ12:20~22)**

- (1) ピリポという名前は、新約聖書に4人出て来る。
  - ①使徒ピリポ
  - ②ヘロデ大王とマリアンメの息子、ヘロデ・ピリポ(ヘロデヤの元夫)
  - ③ヘロデ大王とエルサレムのクレオパトラの息子、国主ピリポ  
・ルカ3:1 「イツリヤとテラコニテ地方の国主」
  - ④伝道者ピリポ
  
- (2) ピリポというのはギリシア風の名前である。
  - ①ギリシア的なものとの関連性がうかがえる。
  - ②そう見ると、ギリシア人が最初にピリポに声をかけたのには理由がある。
  
- (3) ピリポの対応は、彼の性質を反映させたものである。
  - ①彼自身が、永遠の求道者なので、ギリシア人たちに同情できる。
  - ②しかし、思慮深くなり過ぎて、自分で判断できない。
  - ③それで直感型のアンデレに相談する。  
(例話) 投資セミナーに出た無学な人

4. 最後の晩餐の場面

**「ピリポはイエスに言った。『主よ。私たちに父を見せてください。そうすれば満足します』。イエスは彼に言われた。『ピリポ。こんなに長い間あなたがたといっしょにいるのに、あなたはわたしを知らなかったのですか。わたしを見た者は、父を見たのです。どうしてあなたは、「私たちに父を見せてください」と言うのですか』」(ヨハ14:8~9)**

- (1) ピリポの願望は、彼の性質を反映させたものである。
  - ①恐らく彼は、神の顕現か、シャカイナグローリーを見たいと願ったのであろう。
  - ②人類の普遍的な願いである。
  - ③行き着く先は、偶像礼拝である。
  
- (2) イエスの回答は、驚愕の内容である。
  - ①イエスを見た者は、父を見たのである。

II. ナタナエル

1. 概略の紹介

- (1) ガリラヤのカナ出身

- ①恐らく漁師であろう。
- ②ヨハ21:2に登場する。
- ③ヨハネの福音書では、ナタナエル(神は与えた、God has given)で登場する。
- ④共観福音書では、バルトロマイ(トロマイの息子)で登場する。

(2) 福音書に彼が登場するのは、2箇所だけである。

## 2. イエスとの出会い

「ナタナエルは彼に言った。『ナザレから何の良いものが出るだろう』。ピリポは言った。『来て、そして、見なさい』。イエスはナタナエルが自分のほうに来るのを見て、彼について言われた。『これこそ、ほんとうのイスラエル人だ。彼のうちには偽りが無い』。ナタナエルはイエスに言った。『どうして私をご存じなのですか』。イエスは言われた。『わたしは、ピリポがあなたを呼ぶ前に、あなたがいちじくの木の下にいるのを見たのです』。ナタナエルは答えた。『先生。あなたは神の子です。あなたはイスラエルの王です』。イエスは答えて言われた。『あなたがいちじくの木の下にいるのを見た、とわたしが言ったので、あなたは信じるのですか。あなたは、それよりもさらに大きなことを見ることとなります』。そして言われた。『まことに、まことに、あなたがたに告げます。天が開けて、神の御使いたちが人の子の上を上り下りするのを、あなたがたはいまに見ます』

(ヨハ1:46~51)

(1) ピリポから紹介された。

- ①ナタナエルの反応は、「ナザレから何の良いものが出るだろう」であった。
- ②ガリラヤのカナ出身の彼は、ナザレのことをよく知っていた。

(2) イエスの応答

- ①「これこそ、ほんとうのイスラエル人だ。彼のうちには偽りが無い」  
\*最高のほめことばである。
- ②イエスは、彼がどこで何をしていたかを言い当てた。

(3) ナタナエルの信仰告白

- ①「先生。あなたは神の子です。あなたはイスラエルの王です」
- ②この時点での理解は不完全であるが、イエスがメシアであることは認めた。

## 3. 復活のイエスとの出会い

「この後、イエスはテベリヤの湖畔で、もう一度ご自分を弟子たちに現された。その現された次第はこうであった。シモン・ペテロ、デドモと呼ばれるトマス、ガリラヤのカナの

**ナタナエル、ゼベダイの子たち、ほかにふたりの弟子がいっしょにいた」(ヨハ21:1~2)**

- (1) ペテロ、アンデレ、ヤコブ、ヨハネが体験したことを、彼も体験した。
  - ①最初の出会いの時に語られたことばを、彼は体験した。
- (2) これ以外にも多くのことを体験したはずである。

**結論：**

1. ピリポは哲学者である。

- (1) 彼の長所は、知的、理性的であること(ギリシア的なものとの関連)
  - ①ナタナエルに対して説得力がある。
  - ②また、ギリシア人にもアピールする力がある。
- (2) 信じる前に、さまざまな角度から検証し、体験せねばならないタイプの人
  - ①決して悪いことではない。
  - ②しかし、それが彼の信仰の成長を阻んだ。
  - ③イエスの弟子訓練は、そこを修正するためのものであった。

(3) 復活のイエスの目撃者

- ①ヨハ20:24~25 トマスはいなかった。
- ②マタ28:16~20 大宣教命令を受けた。

**②使1:13**

**「彼らは町に入ると、泊まっている屋上の間に上がった。この人々は、ペテロとヨハネとヤコブとアンデレ、ピリポとトマス、バルトロマイとマタイ、アルパヨの子ヤコブと熱心党员シモンとヤコブの子ユダであった」**

2. ナタナエルはイスラエルの型である。

- (1) ナザレから出る者への懐疑心
- (2) イエス彼を、「まことのイスラエル人」(ヨハ1:47)(新共同訳)と呼ばれた。
  - ①彼が黙想していた箇所は、ヤコブがベテルで神と出会う箇所である。
- (3) 彼は、復活のイエスを顔と顔を合わせて対面した(ヨハ21:1~14)。
- (4) 彼の姿は、イスラエルの救いを祈るための動機付けとなる。
  - ①イエスを信じるユダヤ人は、「完成したユダヤ人」である。